

「なおしタル H」(高強度タイプ)

「NAOSHITARU H」

「なおしタル H」は、使用時に所定量の水を加え、練り混ぜることにより使用できる、特殊ポリマー系(従来のポリマーセメントモルタルに使用しているエマルジョンとは異なる)プレミックスタイプ断面修復用モルタル材です。今までの断面修復モルタル材にはなかった高強度タイプで、付着強度にも優れ、高い無収縮性能を有しています。トンネル、橋梁等の土木構造物のほか、建築構造物(高強度物件)の断面補修、かぶり補修、豆板補修に使用することができます。

特長

1. 高いチクソトロピー性を有しているため、ダレが少なく容易に厚塗り施工ができ工期短縮につながります。
2. 吹付け工法、コテ塗りのいずれの施工方法を用いることができます。
3. 無機系材料構成のため、耐火性に優れています。
4. 今までにない高強度特性で、幅広い場面で使用することが可能です。

用途

- トンネルのインバート・アーチ部の補修、橋梁橋脚部の補修、他土木構造物の補修
- 地下構造物の補修、浄水場設備の補修、他建築構造物の補修
- かぶりの補修(5mm以上)、コアボーリング後の孔補修、はつり後の補修
- 犠牲陽極設置後の断面修復、電気防食工事
- 床面表層保護・目違・不陸調整、凹凸部の平滑化

仕様

1袋あたりの練上り量			1㎡あたりの使用量		可能施工厚 (mm)※2	
「なおしタルH」 (kg)	水 (kg) ※1	練上り量 (ℓ)	「なおしタルH」 (kg)	水 (kg)	垂直面	天井面
20	2.6	約10	2000kg (20kg×100袋)	270	5～150	5～30

注1 練り混ぜ水は、環境温度、施工方法により変動します、20kg入袋1袋あたり21～3.0kgの範囲を目安にご使用ください。

注2 可能施工厚の最大値は、吹付け施工によるものです、コテ施工の場合は、最大値の約1/2～1/3の数値になります。

施工方法

1. 施工する面は必ず粗面処理を行い、湿潤状態にしてください。
2. 20～30mmを超えて厚付け施工をする場合、アンカーピン、ワイヤー等の剥落防止対策を検討してください。
3. 鉄筋が腐食している場合は、適切な防錆処理を行ったのち施工してください。
4. 「なおしタルH」の練混ぜは、ハンドミキサまたはパン型ミキサを用い、練混ぜ時間180秒を目安に練混ぜたのち、湿式吹付けまたはコテ塗りにて施工してください。なお、高強度タイプのため、従来の断面修復モルタル材に比べて練混ぜ開始から60～90秒までは硬い状態が続きますが、その後、適正な性状になりますのでご注意ください。
5. 施工後は必ず適切な養生を行ってください。特に直接風が当たる場合は、シート、ビニール等で養生してください。養生ができない場合は、施工後、被膜養生剤の使用をお薦めします。

物性試験例

水 量 (kg/ 袋)	練上り温度 (°C)	モルタルスラブ (mm)	環境温度 (°C)	圧縮強度 (N/mm ²)		付着強度 (N/mm ²)	長さ変化
				7日	28日		28日
2.6	20.0	70	20	64.3	78.5	2.69	-250 × 10 ⁻⁶

モルタルスラブ： JIS A 1171 (ポリマーセメントモルタルの試験方法)

圧縮試験： JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法、20°C、湿度 60%、気乾養生)

長さ変化： JIS A 1129 (モルタルおよびコンクリートの長さ変化試験方法、供試体作成後、翌日基長にて測定)

付着強度： 建研式 (300×300×50mm コンクリート平板母材 t=10mm 20°C、湿度 60%、気乾養生)

使用上の注意事項

1. 水量は、環境温度、施工方法に応じて試験練りを実施の上、決定してください。また、練混ぜ水には上水道水またはこれに準じた水を使用してください。なお、「**なおしタルH**」の目視での柔らかさは、通常のもルタルに比べ、やや硬く見えますのでご注意ください。
2. 本製品の保管方法は、セメントと同様に保管し、破損した袋の製品は使用しないでください。
3. 取扱いおよび施工には、必ず、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の保護用具を着用してください。
4. 本製品が目に入った場合、皮膚に付着した場合は、速やかに洗浄し、専門医の診察を受けてください。

包装形態

20kg 入 防湿袋

なおしタル工法研究会



株式会社ニューテック

〒174-0056 東京都板橋区志村1-2-9

TEL 03-5918-9688 FAX 03-5918-9687

<http://www.kknewtech.co.jp/> E-mail info@kknewtech.co.jp